

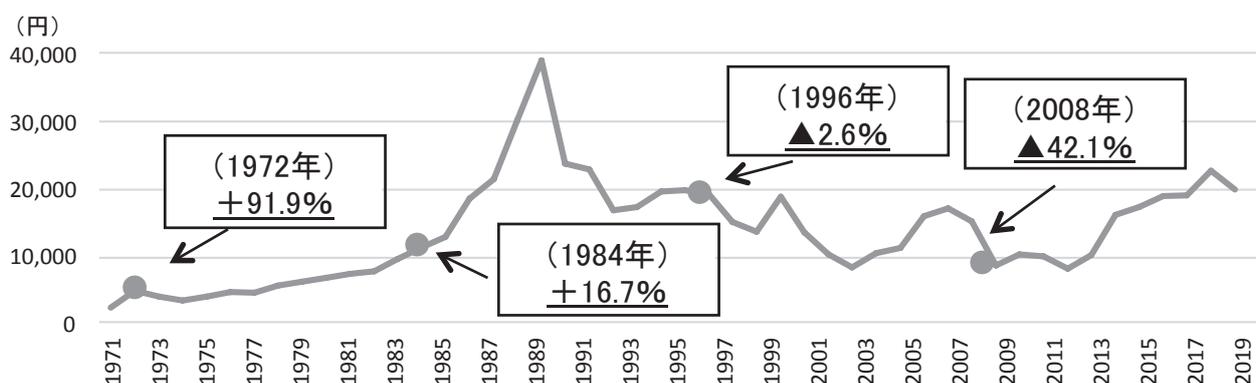
# 注目のキーワード「干支の相場格言」

2019年も残すところあと僅かになりました。亥年である2019年は、進展と後退を繰り返す米中協議やイギリスのEU離脱交渉の動向に振られながらも、主要国の緩和的な金融政策に支えられ、相場格言の「亥(い)固まる」の通り、安定した相場の動きとなっています。

子年である来年の格言は「子(ね)は繁栄」であり、上昇相場となる傾向があると言われています。過去4回の子年の株価騰落率をみると、マイナスとなった年が2回、プラスとなった年が2回と、勝率は2勝2敗となっています。いつも格言通りの上昇相場になるとは言えず、直近の2008年はリーマンショックの影響もあり大きく相場は下落しましたが、1972年には91.9%と大幅な株価上昇がみられ、「繁栄」にふさわしい動きをみせました。

2020年は、米国大統領選挙や東京オリンピック・パラリンピックの開催など、国内外で注目すべきイベントが多く控えています。米中貿易問題やイギリスのユーロ離脱問題など、来年に持ち越される懸念事項も多くありますが、2020年が「子(ね)は繁栄」の相場格言通り、株式市場が活気づく良い1年であることが望まれます。

## 子年の日経平均株価騰落率



(注)大納会の終値ベース。2019年の終値については11月6日の終値。  
(出所)日本経済新聞

## 編集後記

2019年も残り僅かになり、街のあちらこちらで年末特有の雰囲気濃くなり始めた。2020年は子年。恒例の干支相場格言では、戌笑い亥固まる、ときて、子は繁盛、丑つまずき…と続くが果たしてどんな年になるのやら。2020年はいろいろなことがいよいよ本番を迎える年と言ってもいいのではないかな。

まずは東京オリンピック、パラリンピック。皆さんも色々ツツコミたいところはあると思うが、ラグビーワールドカップ大会が予想以上に盛り上がったことを考えると大いに期待していいと思う。オリンピックの自国開催、やはり特別なものがあるような気がする。

英国のEU離脱、ブレグジットも年明け早々には確定し、統合と深化を続けてきたEUの歴史の転換点になりそうだ。合意あり離脱で急激な変化は見えないかもしれないが、それだけに要注目だ。尤もこれまでのごたごたを見ているとこのまますんなりと決まるのか半信半疑なところもあるが。

11月にはアメリカの大統領選挙。まだ1年近くあるのでどんな議論がなされ世論が動いていくのか分からないが、キャンペーン特有のシンプルでストレートで過激な言葉が飛び交うことが想定される。普通にやれば纏まるものもちゃぶ台返しで壊されたり、今までの議論は何だったの?というほどあっさり合意したりということが起きてくるかもしれない。金融市場にとっては厄介な時期に突入していくということ。

前回選挙は2016/11、その1年前、2015年末の時点で共和党トランプ候補の本選勝利を予想した人が何人いたのだろうか。何が争点になるのか、何が起きるのか分からない。アメリカらしい選挙キャンペーンを期待したい。(H.S)